

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第182回 「認知発達段階—ピアジェー」

作業療法士 塩津 裕康

作業療法士の塩津です。世界には、子どものさまざまな発達について研究している人達があります。専門家でない限り、なかなかその知識に触れることも少ないと思いますので、この場で紹介していければと思います。今回は、「認知発達段階」についてもう少し説明したいと思います。特にピアジェが述べたものを紹介します。

●ジャン・ピアジェ Jean Piaget

スイスの発達心理学者で、子どもの「知能」に関してさまざまな知見を提唱した人です。子育ての視点にも役立つ知識が多く含まれていると思います。

●認知発達の4つの段階

1. 感覚運動期 (0～2歳)

この時期の特徴は「本能的に行動する」ことです。自身の体を中心とし、今ここにある対象を存分に扱うことです。大人から見れば何が面白いのか分からないと思いますが、なめる・転がる・ジャンプするなど、さまざまな感覚と運動で楽しむ時期です。この時期はこの経験が大切なのです。少しずつ言葉を話し始めると、次の時期の以降の準備が始まります。それは「行動する前に考えること」が始まります。

2. 前操作期 (2～7歳)

この時期の特徴は「みてる」ことができるようになることです。つまり、葉っぱをお皿に、小石をご飯にみだてる遊びが可能になります。ふり・ごっこ遊びができるということは、頭の中でイメージすることが可能になっていると考えられます。

そして、後半には「概念」となり、知識や経験を結びつけていくことが可能になります。これは人が社会化していくための重要なことです。

3. 具体的操作期 (7～11歳)

この時期から、頭の中で情報を「操作」できるようになっていきます。しかし、最初は具体的なものでしか操作することができません。例をあげると、足し算するのに指やブロックを操作する必要があるなどです。また、「直感」に頼ることが多いことも特徴です。

4. 形式的操作期 (11歳～)

この時期から、直感の判断だけでなく、自分の頭の中で筋道を立てて物事を考える事ができるようになっていきます。つまり、仮説を立て、結果を予測し、行動・発言していけるわけです。

●まとめ

今回は、認知発達の段階について説明しました。イメージとしては、段階がどんどん切り替わるというよりも、初期のものも残りながら積み重なっていきます。そのため、その時期の認知発達に応じた課題を行うことも大切ですが、時には感覚運動遊びも大事なわけです（大人もジェットコースターが好きだったり…）。さまざまな視点で子育てできると見方も変わるかと思い紹介させていただきました。

※塩津作業療法士は、あさひ園で個別療育相談を行っています。

2月の子育て支援事業



日程	時間	事業名	内容	対象	場所	予約	担当
2/12(金)・16(水)・19(金)・26(金)・3/2(火)・4(木)・9(火)	9:00-12:00	あそび場	スキンシップ・ストレッチなどの遊び	発達障害の子どもの保護者	ほっとくらぶ	不要	ほっとくらぶ (377-3522)
2/17(水)	10:00-12:00	ほっとする会の	茶話会				
3/5(金)	9:00-12:00	親の会					

*最終ページに子育て健康課の子育て事業を掲載していますので、ご覧ください。

*お問い合わせは、各担当者にご連絡ください。

住み慣れた地域で「ゆ」「た」「か」な生活を♪

見学・詳細は
お気軽に
お問い合わせ
下さい

入居者募集中

※在宅での生活が難しい方や入院中の方もご相談下さい

※介護や認知症についてのご相談も受け付けております

入居要件 要介護1以上の方

医療法人 福島会 「ゆ」つくり「た」のしく「か」そくのように豊かな生活がテーマです

グループホームあさひ 三重郡朝日町小向2064-1 ☎376-3300

ふくしまだより 検索 日々の様子をブログにて公開中!

有料広告掲載欄